

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4678600125
法人名	社会福祉法人 潤生会
事業所名	グループホームひまわり
訪問調査日	平成 21 年 8 月 24 日
評価確定日	平成 21 年 10 月 5 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 9月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	4678600125
法人名	社会福祉法人 潤生会
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地	鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋瀬久井西8番地3 (電 話) 0997-73-1311

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成21年8月24日
評価確定日	平成21年10月 5 日

【情報提供票より】(21年 8月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 14日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
常勤	8 人
非常勤	0 人
常勤換算	8 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建て、 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	光熱費(月額)	3,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1000 円		

(4)利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.8 歳	最低	81 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	いづはら医院・瀬戸内徳洲会病院・へき地診療所・ア歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームひまわりは法人母体の養護老人ホームに隣接し、夏祭り・誕生会など母体の行事と一緒に参加していて、利用者・家族は毎回の催し物を楽しみにしている。食堂・ダイルームを中心に、ひまわりの花びらのようにダイルームを囲むように居室が作られ、9種類の南国の植物の写真と名前が居室の入り口に飾られている。地元の食材を家族の協力をもらって収集し、グアバ茶・すももゼリーを作ったり、よもぎ風呂にしたりと、家族と一緒に利用者の支援をしているグループホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の外部評価は、職員・家族に報告し、運営推進会議でも報告している。重度化や終末期に向けた方針の共有は、継続には至ってない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員会議で話し合いまとめ上げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年度は二回、今年度は一回の開催である。地域代表・家族代表・町担当の参加で、事業所からの報告で終わっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会はないが、クリスマスパーティに家族をお誘いしてその時を要望を聞く機会にしている。ほとんどが面会時に家族からの要望・意見をもらい、職員は申し送りノートで共有している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の高齢者へお菓子を届けるなどして、安否確認をしている。子供会との交流や港祭り・シーカヤックの見学など地域とのつながりを大切にしている。

評価結果（詳細）

( 部分は重点項目です)

外部からの評価項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念に平成19年度から「地域との交流をすすめ、地域の一員としての暮らしをお手伝いする」と地域密着型サービスとしての理念を付け加えて作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスとしての理念は、玄関に掲示されている。法人の基本理念をホールに掲げ、それを朗読して仕事を開始している。	○	地域密着型サービスとしての理念をホールに掲げ、職員に浸透させ、理念の実践に取り組まれることを望みます。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の高齢者へお菓子を届けるなどして、安否確認をしている。子供会との交流や港祭り・シーカヤックの見学など地域とのつながりを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価は、職員・家族に報告し、運営推進会議でも報告している。重度化や終末期に向けた方針の共有は、継続した取り組みに至ってない。自己評価は、職員会議で話し合いまとめ上げている。	○	自己評価は、時間をかけて作り上げ、職員一人ひとりの介護ケアの振り返りの機会にされることを望みます。外部評価も改善点の継続的な取り組みをされサービスの質の向上に取り組まれることを望みます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は二回、今年度は一回の開催である。地域代表・家族代表・町担当者の参加で、事業所からの報告で終わっている。	○	職員又は包括支援センター職員が必ず参加して、年6回開催されることを望みます。また、事業所の運営に関して助言を得られる内容になることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町が主催する民生委員の見学に、事業所を使ってもらっている。運営推進会議に町職員の出席がない。	○	運営推進会議の開催を町職員が参加しやすい日時に計画され、毎回参加してもらえるように期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の利用者の様子・心身状態を書面で報告している。時々利用者の行事での様子を撮った写真も送付している。職員の異動については、面会時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は無いが、クリスマスパーティに家族をお誘いしてその時を要望を聞く機会にしている。ほとんどが面会時に家族からの要望・意見をもらい、職員は申し送りノートで共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が退職した場合は、法人との行事で顔馴染みになっている法人内の職員を異動してもらったりして、利用者へのダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の中で外部研修の報告会を行い、伝達講習をしている。法人内の研修計画に留まっている。事業所内の研修計画はない。	○	グループホームに必要なマニュアルを作り、職員の育成に努められることを望みます。事業所内研修計画を作り、実施記録を残すことを望みます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大島地区グループホーム協議会の研修会に、参加している。職員の相互訪問などの活動はしていない。	○	職員が、同業者との交流・相互訪問などの活動を通じて、職員一人ひとりのサービスの質の向上に努めることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は病院からが多く、家族の見学が多いため管理者が病院に出向いて顔馴染みになってサービスを開始している。入居後は、家族の面会を頻繁にもらい雰囲気に徐々に馴染めるように家族等と工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から煮付けの味付け・調理方法・昔からの行事についてなど学び、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議の中で職員の気づきを共有して、利用者の希望・意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議の中で職員の気づき・意見を聞き、家族からは面会時に意見を頂き介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期は3ヶ月、長期は6ヶ月で見直しを行っている。対応できない変化が生じた場合は、随時見直しをしている。	○	利用者の状態が安定していても、毎月新鮮な目で全職員でモニタリングを行い、記録されることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の負担となる受診や入院の回避のためにかかりつけ医の往診をお願いしている。家族の要望に応じて通院介助・理美容院への送迎など柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人・家族の希望するかかりつけ医になっている。緊急時の連絡体制・他科受診への紹介など適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、その都度家族と話し合っている。職員は、周知しているが、不安感が見受けられる。	○	事業所として出来ること出来ないことを職員と話し合い明確にされ、重度化に伴う意思確認書を作成することを勧めます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護について職員にミーティングの時に話し、徹底を図っている。記録物は事務所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝ゆっくり起床する人、夜眠たくなるまでゆっくりテレビを観る人、入居前から利用していた理美容院へ継続して行っている人、一人ひとりのペース・希望に添って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養士が献立を作っているが、時々利用者の希望を取り入れている。食事に関する一連の作業を利用者の力量に応じて職員と一緒にいき、食事をしている。誕生会の時は、特別食を作り楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、隔日に入浴日を予定しているが、毎日でも可能である。夏は、湿疹予防によもぎ湯を準備したり、二人で入りたい方・シャワー浴を好む方など利用者の楽しみになっている。拒む方は、声かけの工夫タイミングを見ながら実施している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事に関する一連の作業を利用者の力量に合わせて役割をしていただいている。春・秋の遠足、花見・公園への散歩・ドライブに出かけたり、法人内のボランティアによる催し物など楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	海を見に港へ出かけたり、菜園に野菜を取りに行ったり、玄関前で涼んだり、戸外に出かけられる支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向にある方は、様子観察を徹底して、声かけの工夫、一緒に出かけたりと、鍵をかけないケアに取り組んでいる。近隣の方々、法人の職員へ見守りをお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回法人と合同で、消火訓練・事業所で避難誘導訓練を実施してきたが、今年度から法人と別々に訓練することになった。避難誘導場所の確保のために法人の敷地へ誘導できるように現在準備中である。	○	地震・風水害の避難訓練の自主訓練を行い、職員が自信をもって避難誘導できるように期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が献立を作りバランスは取れている。食事摂取量・水分摂取量のチェックをしている。利用者の状態に応じて刻み・ミキサー食にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	六角形の建物になっていて、ホールから全ての居室が見渡せる設計になっている。ホールには、食卓テーブルが置かれ、利用者は、日中そこで過ごしている。壁にテレビがあるが、前に観るためのソファなどが無く、観るときは食卓用のイスを移動している。天井が高く、天窓があり明り取りと窓の開閉により空調になっている。利用者と子供たちが作った七夕飾りが飾られ季節感を取り入れている。	○	利用者が食卓の場所だけでなく、自分で好きなところへ一人で移動して、テレビを観たり、語らう場所の工夫を期待します。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入り口に一人ひとり違う暖簾がかけられ、利用者の写真を掲げて、利用者の間違いを防ぐ工夫をしている。居室内に洗面所とトイレが付いておりベッドと棚が備え付けられている。テレビ・写真・パイプハンガーなど自宅から持ち込まれている。		